

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十六年七月度 入選句 (投稿総数 二千百三十八句・小中学投句数千六百十二句)

特選

選者 遠藤 幹郎

クロールでみあげたそらからみずしぶき 大垣市 大倉 優舞(小五)

夏は水泳シーズンです。きつと学校のプールでお得意のクロール泳ぎを楽しんだのでしょうか。晴れた青空のもと、利き腕で力強くかいて息づきをすると、その水しぶきが空から降りかかってきたというのです。まっ青な空、まぶしい太陽の光に輝きながら降りかかってくる水の色、そんな情景が生き生きと表現できました。季語(夏) 川クロール。

つばめの子ぼくだぼくだと親をよぶ 大垣市 川瀬 大志(小五)

「ぼくだぼくだと親をよぶ」が、とてもよく効いた一句です。卵からかえったかわい子つばめが、えさをくわえてもどつて来た親つばめに、われもわれもと、せまい巣から身をのり出して口をあけて叫んでいる様子が、目に浮かぶように生き生きと表現できました。観察もよく効いた一句です。季語(夏) 川つばめの子。

けんかしてアイスクリームでなかなおり 大垣市 長澤 麻未(小一)

二人姉妹の姉さんと妹が、何のはずみでけんかになつてしまったのでしよう。けんかで熱くなつた二人をさましてくれたのがアイスクリームだったのですね。大好きなアイスクリームを食べながら仲よしの二人にかえつたというところが、とても味わいのある一句となりました。季語(夏) 川アイスクリーム。

秀逸

お父さんリズムにのって盆踊り 大垣市 井上 悠馬(小六)

水まんじゅうつるつと口にながれこむ 大垣市 城田 桃花(小六)

じりじりと景色がゆれる夏真昼 大垣市 久保 綾乃(小六)

雨あがり空に一本にじのはし 大垣市 神村 紗彩(小六)

ふうりんが音色かなでる演そう会 大垣市 中西 美羽(小六)

大垣の七夕かざりかぜにゆれ 大垣市 高木 美音(小六)

赤ちゃんの笑顔はまるでひまわりだ 大垣市 小林 加奈(小六)

かげろうがぼくの足元包んでる 大垣市 那須 春仁(小五)

天の川星のじゅうたんみたいだな 大垣市 米倉 愛麗(小六)

せんぷうき家族みんなでとりあいだ 大垣市 吉田 唯菜(小六)

入選

カブトムシのっそのっそと歩いてく 大垣市 和田 俊(小六)  
 空にある星の海だな 天の河 大垣市 米倉 愛麗(小六)  
 暑き夜かいだん話し盛り上がる 大垣市 小山 波音(小六)  
 夏の朝ラジオにのってたいそうだ 大垣市 柳瀬 柚月(小六)  
 ひまわりは太陽よりもまぶしいな 大垣市 高橋 昂将(小六)  
 日に向かいぐんぐんのびるひまわりだ 大垣市 大倉 絢音(小六)  
 夏の空けんてい合格青ぼうだ 大垣市 若園 栞里(小六)  
 もくもくと入道雲がでてきたぞ 大垣市 林 春 向(小六)  
 おこられて心の中はつゆぐもり 大垣市 山田 理矩(小六)  
 目ざましの役目を果たすセミの声 大垣市 桐山 健伸(小六)

入選

牛蛙 その声池に音ひびく 大垣市 藤井 拓朗(小六)  
 五時間目すいまがおそう夏の昼 大垣市 多賀 元紀(小六)  
 夏がきた海にむかってはしりだす 大垣市 大屋 紅輝(小六)  
 いつでもねぼくの心はカブトムシ 大垣市 山本 弦粹(小六)  
 えんてんかシユートを決めてハイタッチ 大垣市 種田 怜伊寿(小六)  
 夏まつりマスをつみあげゆうしようだ 揖斐郡池田町 しみず めい(小三)  
 お母さん日傘さしてはだ白だ 大垣市 西村 武琉(小五)  
 なつのうみぎらぎらひかるたいようで 大垣市 福永 有輝(小四)  
 恥ずかしげ真っ赤な顔のさくらんぼ 大垣市 神田 真友子(小六)  
 かき氷口いっぱいにほお張るよ 大垣市 松原 蒼(小六)

選者吟

鶉 篝の闇より出でて闇残す

幹 郎